

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	54	居室は、本人が居心地良く過ごせるよう、家族や本人に好みのものや馴染みのものなどの持込みを勧めているが、入居時に処分してしまったりと、事業所の備品のみので、居室が多いので、工夫が必要である。	居室に、思い出の写真の掲示やアルバムの作成、思い出の品の持込みを行い、居心地良く過ごせる環境をつくる。	家族に面会時や家族会での馴染みの品やアルバムの持ち込み依頼を行う。 また、入居中のアルバムづくりを職員と一緒に進めていく。	12ヶ月
2	33	利用者・家族との話し合いで、全員が終末期を事業所で過ごすことを希望している。現在、重度化している利用者はいないが、今後の対応について具体的に検討する必要がある。	終末期の対応が行なえる体制作りを行なう。	・利用者・家族・主治医との話し合いを行なう。 ・終末期の対応についての研修を行なう。	12ヶ月
3	2	週に1人以上のボランティアが訪問されるようになったが、地域との交流が十分とは言えない。	地域との交流が活発に行なえる。	・グループホーム便りの地域への配布を行い事業所の理解を図ってもらう。 ・毎月1回のミニデイサービスへの参加を行なう。	12ヶ月
4	20	入居後、元の地域と連携や馴染みの関わりが途切れている。	利用者の馴染みの方や友人・場所等と途切れなく交流が持てる。	・利用者・家族・馴染みの方や場所との交流継続へ向けて話し合いを行なう。 ・馴染みの方や自治会等への認知症サポーター養成講座の開催をし、認知症への理解を促す。	12ヶ月
5	4	運営推進会議は定例化しているが、事業所からの活動報告が主であり、委員の持つ力を引き出せていない。	運営推進会議の活発化を図り、委員の持つ力を事業運営に活かす。	・運営推進会議で認知症講話等を行い、参加人数の増加を図り、多様な意見が出る会議にする。	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。